

運勢

加藤 誓 (ちかい)

つい見てしまうのは、何で、だろうか。

新聞のテレビ番組の下の「運勢の欄」を。

まずは自分の干支のところを見る。調子良い運勢であればそれだけで、納得。

悪い運勢なら、女房の干支を見る。それが、良ければ、「今日は、安心だ！」何故なら、女房も毎日必ず目を通してしているからだ。

それも悪いと「今日は、要注意！」。

ゴミ出しなどほんの少しだけ手伝い、胡麻をすることにする。

但し、運勢が良くも悪くもない時は「ああ、今日はそんな日か。」と思うが、直ぐ忘れてしまうのも事実である。

ところで一体、運勢とは何だろうか。正月の「おみくじ」は毎年楽しみにひく。

運悪く、今年は「凶」であった。しかし「これ以上悪くはならない。」と考えると気も楽になると何かに書いてあった。末吉は、「後は吉のみ」小吉は「小さな幸せ、無事過ごせる」とも。

新聞の運勢欄に戻るが、同じ干支の人は、皆同じ運勢だろうか。そんなはずはない。ただ人によって運勢の言葉の感じ方や、運勢への信じ方が異なることはあると思う。

そこで、数日間、運勢欄に書いてある文句、12支の全てを読んで分析してみた。

所謂、大吉に相当するのが1個、凶に相当するのが1個。それ以外は、「こうした方が良い。」「こう考えるのもある。」「何々に気を付けよ。」「例えや格言的なもの。」で構成されている。

字数は干支ひとつに25字～45字。総数は320字である。

作者のご努力か、毎日内容文は異なり同じ文はひとつもない。

所々、「なるほど、ああそうか、」と気になる文がある。

暇な時は「運勢12支」の全てに目を通すのも一興かと思った。

気楽な、娯楽感覚で「さる年」のところを見てみた。

「気楽に行動することは良いことだが、時には人の事を信じないと友を失う」とあった。

これは、大変だ！

